海陽町の民家

民家班（日本建築学会四国支部徳島支所）

松尾　晶子[1*]　井上　幸美[2]　植田　悟美[3]　喜多　順三[4]　久保　文乃[5]　高田　哲生[2]
林　茂樹[1]　原田奈央子[6]　福田　頼人[7]

要旨：阿波学会等の過去の報告をもとに「ミセ造り（蔀帳）」を有する民家の残存数調査に加え，未調査であった茅葺き民家の分布を悉皆的に調査し，近代和風建築の詳細調査を行った。その結果，「ミセ造り」を有する民家は，建物解体や改修により減少していることが分かった。茅葺き民家の確認数は少ないが県南部の山村集落における貴重な建築資料と考えられる。近代和風建築も減少傾向にあるが，浅川地区に残る類似した特徴を持つ民家の調査から，明治期の大規模な町家の様式を記録できた。

キーワード：ミセ造り（蔀帳），茅葺き民家，近代和風建築，たかへい，あわや，ほそや

1．はじめに

徳島県の最南端に位置する海陽町は，旧海南町・海部町・宍喰町が合併し発足された町である。これまで旧各町で阿波学会等の総合学術調査報告が行われており，県南部漁村集落の民家の主な特徴である「ミセ造り（蔀帳）」を中心とした調査が行われてきた。今回は①浅川，②四方原，③大里，④奥浦，⑤鞆浦，⑥宍喰浦，⑦久保，⑧その他（山間部）の８つの地区において，ミセ造り（蔀帳）を有する民家，茅葺き民家，近代和風建築の調査を行った。

2．ミセ造り（蔀帳）を有する民家

県南地域の漁村集落に多くみられる「ミセ造り（蔀帳）」を有する民家は，これまでその分布状況や地域別特徴など調査研究が行われてきた。（**図１**）

1994年に阿波のまちなみ研究会が行った調査において「ミセ造り（蔀帳）」を有する民家の分布状況を把握してから約30年の歳月が経過している。現在の利用状況や残存状況を把握するため，『漁村集落の〈景〉徳島県南漁村「ミセ造り」の街並み調査報告書』に掲載された分布実態（**図２**）をもとに再調査を行った。その結果，建物解体や改修により減少していることが明らかになった。

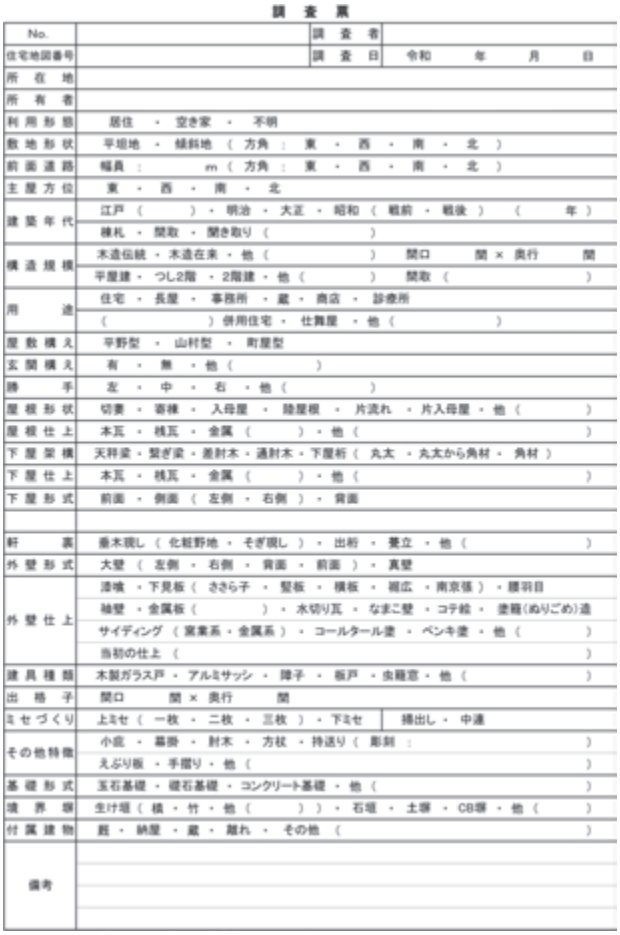
図１　漁村集落の〈景〉（1994年）

番号	住所	蔀帳	W	H（上）	H（下）	FL	持送り	玄関勝手	備考
1	東町137	上2下	1485	1050	610	430	×	左	
2	東町	— 下	1465	—	723	580	不明	不明	
3	東町	上2下	1480	933	607	555	×	不明	上二つ折(470+463)
4	東町	上 下	1420	600	760	675	▲両	右	
5	東町91	— 下	1925	—	425	480	×	右	上引戸式(H=1420)
6	東町89	上 下	1500	920	875	560	○両	左	
7	東町	— 下	1545	—	670	570	○右	右	上引戸式(H=1130)
8	東町46	上2下	1430	1130	670	620	▲両	右	
9	東町82	上 下	1810	790	980	595	○左	左	
10	東町78	上 下	1940	995	830	630	○左	左	
11	東町60	上 下	1265	625	650	685	×	右	
12	東町62	上2下	1940	960	700	640	×	右	上二つ折(540+420)
13	東町59	上 下	1570	750	615	520	×	右	
14	東町58	— 下	1920	—	570	710	×	右	上引戸式(H=1250)
15	東町	上 下	1650	920	770	520	○右	右	
16	東町	上2下	1570	920	700	630	×	右	上二つ折(340+580)
17	東町	上 下	1040	920	740	485	×	左	
18	東町55	上2下	1500	1000	600	585	▲左	右	上二つ折(470+530)

図２　ミセ造り調査データ（漁村集落の景より抜粋）

1　（株）林建築事務所　2　佐藤建築企画設計　3　自営　4　空間計画研究所　5　（株）谷崎建設・設計事務所
6　徳島県県土整備部住宅課　7　くすの木建築研究所
＊　〒770-8063　徳島市南二軒屋町２丁目３－３－301　（株）林建築事務所

図 3 に示す調査票を用いて外観上の特徴のほか，空き家の有無の確認も行った。



調　査　票

No.		調査者	
住宅地図番号		調査日	令和　年　月　日
所在地			
所有者			
利用形態	居住 ・ 空き家 ・ 不明		
敷地形状	平坦地 ・ 傾斜地 （ 方角 ： 東 ・ 西 ・ 南 ・ 北 ）		
前面道路	幅員 ： m （ 方角 ： 東 ・ 西 ・ 南 ・ 北 ）		
主屋方位	東 ・ 西 ・ 南 ・ 北		
建築年代	江戸 （ ） ・ 明治 ・ 大正 ・ 昭和 （ 戦前 ・ 戦後 ） （ 年 ）		
	棟札 ・ 聞取 ・ 聞き取り （ ）		
構造規模	木造伝統 ・ 木造在来 ・ 他 （ ） 間口 間 × 奥行 間		
	平屋建 ・ つし2階 ・ 2階建 ・ 他 （ ） 間取 （ ）		
用途	住宅 ・ 長屋 ・ 事務所 ・ 蔵 ・ 商店 ・ 診療所		
	（ ）併用住宅 ・ 仕舞屋 ・ 他 （ ）		
屋敷構え	平野型 ・ 山村型 ・ 町屋型		
玄関構え	有 ・ 無 ・ 他 （ ）		
勝手	左 ・ 中 ・ 右 ・ 他 （ ）		
屋根形状	切妻 ・ 寄棟 ・ 入母屋 ・ 陸屋根 ・ 片流れ ・ 片入母屋 ・ 他 （ ）		
屋根仕上	本瓦 ・ 桟瓦 ・ 金属 （ ） ・ 他 （ ）		
下屋架構	天秤梁 ・ 繋ぎ梁 ・ 差肘木 ・ 通肘木 ・ 下屋桁 （ 丸太 ・ 丸太から角材 ・ 角材 ）		
下屋仕上	本瓦 ・ 桟瓦 ・ 金属 （ ） ・ 他 （ ）		
下屋形式	前面 ・ 側面 （ 左側 ・ 右側 ） ・ 背面		
軒裏	垂木現し （ 化粧野地 ・ そぎ現し ） ・ 出桁 ・ 養立 ・ 他 （ ）		
外壁形式	大壁 （ 左側 ・ 右側 ・ 背面 ・ 前面 ） ・ 真壁		
外壁仕上	漆喰 ・ 下見板 （ ささら子 ・ 竪板 ・ 横板 ・ 裾広 ・ 南京張 ） ・ 腰羽目		
	袖壁 ・ 金属板 （ ） ・ 水切り瓦 ・ なまこ壁 ・ コテ絵 ・ 塗籠（ぬりごめ）造		
	サイディング （ 窯業系 ・ 金属系 ） ・ コールタール塗 ・ ペンキ塗 ・ 他 （ ）		
	当初の仕上 （ ）		
建具種類	木製ガラス戸 ・ アルミサッシ ・ 障子 ・ 板戸 ・ 虫籠窓 ・ 他 （ ）		
出格子	間口 間 × 奥行 間		
ミセづくり	上ミセ （ 一枚 ・ 二枚 ・ 三枚 ） ・ 下ミセ	掃出し ・ 中連	
その他特徴	小庇 ・ 幕掛 ・ 肘木 ・ 方杖 ・ 持送り （ 彫刻 ： ）		
	えぶり板 ・ 手摺り ・ 他 （ ）		
基礎形式	玉石基礎 ・ 礎石基礎 ・ コンクリート基礎 ・ 他 （ ）		
境界塀	生け垣 （ 槙 ・ 竹 ・ 他 （ ） ） ・ 石垣 ・ 土塀 ・ CB塀 ・ 他 （ ）		
付属建物	厩 ・ 納屋 ・ 蔵 ・ 離れ ・ その他 （ ）		
備考			

図 3　漁村集落の民家　調査票

当時135棟の民家が確認されていたが，建て替えや解体などにより，59棟まで減少していることを確認した。そのうち18棟が空き家である。（**表 1**）

調査地区	1994年	2020年			
	調査数	建替	解体	残存	
		改修	消滅	居住	空き家
1 浅川	22	7	5	7	3
2 四方原	4	0	3	0	1
3 大里	1	0	0	1	0
4 奥浦	11	5	2	2	2
5 鞆浦	56	15	19	14	8
6 宍喰浦	33	9	10	12	2
7 久保	8	1	0	5	2
8 その他	0	0	0	0	0
合計	135	37	39	41	18

表 1　地区別　ミセ造りを有する民家の残存数

多くの残存数を確認することができた，①浅川，④奥浦，⑤鞆浦，⑥宍喰浦，⑦久保の 5 地区について消滅数も含め分布図を示した。（**図 8 ～ 11**）分布図に示すほかに鞆浦の那佐では 1 棟，宍喰の竹ケ島では 1 棟が確認された。

図 4 は1986年に鞆浦のミセ造りを有する民家がある通りを撮影したものであるが，通りの両側に密集して建物が建っていたことがわかる。しかし，現在の同じ場所（**図 5**）と比較すると，建物の解体により空き地になるなど，集落の空洞化が進んでいることが見て取れる。

図 6 は1986年に鞆浦の商店を撮影したものである。かき氷屋を営んでいた軒先では下ミセの周囲に椅子を置き，机の代わりに広げて利用している。店主と思われる婦人が幼子（おさなご）をあやしている様子から，そこで賑わいがあったことがわかる。しかし，現在の同じ場所（**図 7**）と比較すると，かろうじて「ミセ造り」は残存しているが，軒下に物品が放置されたままであるため，空き家となっていると考えられる。

図 4　鞆浦のミセ造りがある通り（1986年）

図 5　鞆浦のミセ造りがある通り（2020年）

「ミセ造り（蔀帳）」は，県南地域の漁村集落における重要な建築的特徴であることから，図面等による記録保存をすすめると同時に，地域の建築文化の継承や保存活用のため，より詳しい調査が必要と考えられる。

図 6　1986年撮影

図 7　2020年撮影

図 8　ミセ造りを有する民家分布図（①浅川）出典：ゼンリン住宅地図徳島県海陽町2018.10

図 9　ミセ造りを有する民家分布図（⑤鞆浦）出典：ゼンリン住宅地図徳島県海陽町2018.10

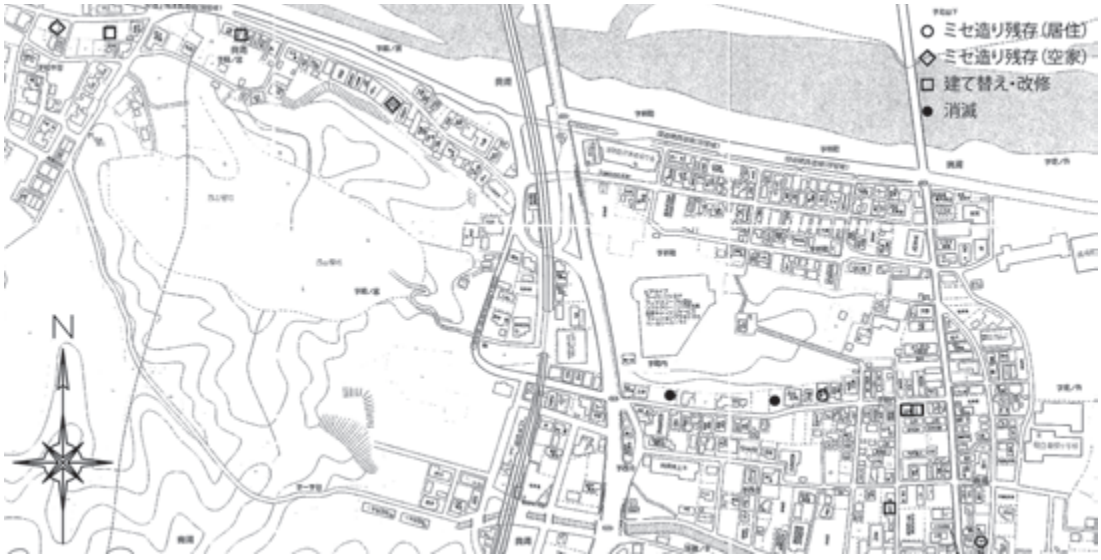


図10　ミセ造りを有する民家分布図（④奥浦）出典：ゼンリン住宅地図徳島県海陽町2018.10

図11　ミセ造りを有する民家分布図（⑥宍喰浦⑦久保）出典：ゼンリン住宅地図徳島県海陽町2018.10

3．茅葺き民家

茅葺き民家については，現地調査に先立ち，地図検索ソフトを利用し，あらかじめ分布状況を確認し，**図12**に示す調査票を用いて調査を行った。

調　査　票

No.		調査日	年　月　日
所在地		地図ページ	
氏　名		写真番号	
屋根仕上	茅・トタン（青・赤・銀・黒・他：　）・他（　）		
屋根形状	寄棟・切妻・他（　）	下屋形式	四方・他（　）
下屋架構	天秤梁（有・無）		
勝　手	右・左・他（　）	寸　法	間口　間×奥行　間
玄関構え	有・無・他（　）	間　取	
外　壁	大壁・真壁・当初の仕上（　）		
外部建具	障子・木製ガラス戸・アルミサッシ・他（　）		
建築時期	（棟札・聞取）	主屋方位	
敷地形状	平坦地・傾斜地（　）	利用形態	居住・空屋・他（　）
屋敷構え	平野型・山村型・その他	便所位置	前・妻側・他（　）
付属建物	庭・納屋・蔵・離れ・その他（　）		
備考			
大黒柱	有（　×　）・無・不明	内法寸法	mm
オモテ桁模	間口　間×奥行　間	内法上部	差鴨居・長押・不明
五尺間	・梁間　・桁行	軒　裏	現し・軒張・出桁

図12　茅葺き民家　調査票

町内全域で悉皆的に調査した結果，海部川の上流域に点在しており，1992年に行われた海南町総合学術調査で一部所在が確認されていた民家を含め，18棟が確認された。そのうち２/３にあたる12棟が空き家である。（**表２**）しかし，確認できた棟数が少なく，**表２**に示すとおり空き家が多くを占めていることから，図面採取や構法の確認などの詳細調査は非常に困難であった。

調査地区	居住	空き家	合計
海陽町全域	6	12	18

表２　茅葺き民家の現存数

これらの茅葺き民家について，可能な限り外観調査を行い，その特徴を**表３**にまとめた。屋根形状は寄棟,トタンで覆われており，下屋形式は半数以上が四方下屋（しほうげや）である。

図13　調査No.2の茅葺き民家

No.	所在地	建築時期	屋敷構え	聞取り	規模		玄関構え	勝手	屋根形状	屋根仕上	下屋形式	下屋仕上	軒裏	外壁		外部建具	主屋方位	利用形態	備考
					間口	奥行								形式	仕上				
1	川又	明治中期	平野	四聞取	5.75	4	無	右	寄棟	トタン	四方	トタン	現し	真壁	下見板	障子	東	空家	過去調査済み
2	寒ケ瀬	江戸後期	平野	四聞取	6.5	5	有	左	寄棟	トタン	三方	桟瓦	現し	真壁	下見板	木製ガラス戸	南	居住	過去調査済み
3	寒ケ瀬		平野		4.5	4	有	左	寄棟	トタン	四方	桟瓦	現し	大壁	下見板	アルミ	南	居住	
4	平井		平野		5	3	無	左	寄棟	トタン	四方	スレート瓦	現し	真壁	漆喰・下見板	障子	西	居住	改修工事中
5	平井		山村		4		無	右	寄棟	トタン	二方	トタン	現し	真壁	土壁現し	木製ガラス戸	南	空家	老朽化により崩落危険有
6	皆ノ瀬		山村		6		有	右	寄棟	トタン	四方	桟瓦		大壁	トタン	木製ガラス戸	西	空家	
7	上小谷		山村		5.5	3.5	無	左	寄棟	トタン	四方	スレート瓦	現し	真壁	漆喰・トタン	障子	南東	居住	
8	樫ノ瀬		平野		6.5	4.5	無	右	寄棟	トタン	四方	桟瓦	現し	大壁	トタン	アルミ	南	居住	お堂ではないか
9	穴瀬谷		山村		5	3.5	無	右	寄棟	トタン	四方	桟瓦	現し	真壁	土壁・下見板	木製ガラス戸	南	空家	
10	下若松		平野							トタン								空家	崩落危険により調査不可
11	伊勢田上		平野		5	3.5	無	左	寄棟	トタン	三方	トタン	現し	大壁	トタン	アルミ	南	空家	
12	浦上		平野		3.5	3	無	右	寄棟	トタン	四方	桟瓦	現し	真壁	土壁・下見板		南東	空家	老朽化により崩落危険有
13	大里飯持		農家		4	2	無	左	寄棟	トタン	二方	桟瓦	現し	真壁	土壁現し	木製ガラス戸	北東	空家	
14	大里飯持		農家	四聞取	4.5	4	有	中	寄棟	トタン	四方	本瓦	現し	大壁	下見板	障子	北西	空家	過去調査済み
15	中山		平野		4.5	3	無	左	寄棟	トタン	四方		現し	大壁	トタン		西	空家	老朽化により崩落危険有
16	中山		平野		5		無	右	寄棟	トタン	四方			真壁		アルミ	西	居住	
17	船津		平野						寄棟	トタン								空家	敷地へのアクセスが不可
18	船津		山村		5	3	無	右	寄棟	トタン	一方	トタン	現し	大壁	トタン・下見板	木製ガラス戸	西	空家	

表３　茅葺き民家データ一覧

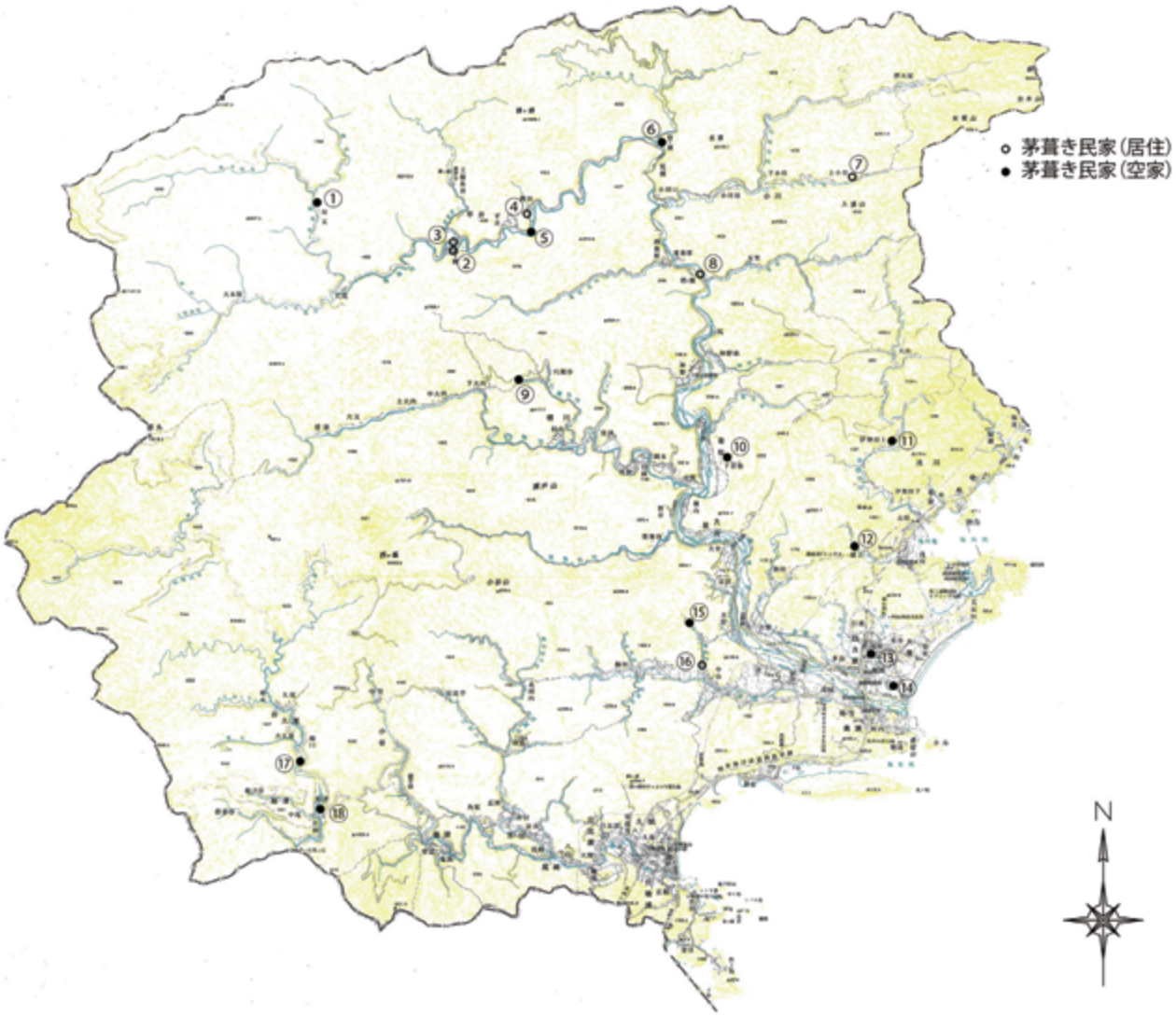


図14　茅葺き民家分布図

4．近代和風建築

2013年に発行された『徳島県の近代和風建築―徳島県近代和風建築総合調査報告書―』をもとに，近代和風建築の調査対象となった民家の現況について**図3**に示す調査票を用いて調査を行った。可能なものについては間取り等の図面採取や所有者への聞き取りなどの詳細調査を行った。近代和風建築とは，主として明治以降に伝統的技法及び意匠を受け継いでつくられた建造物である。

上記報告書では53棟の所在が確認されていたが，建て替えや解体などにより，41棟に減少している。（**表4**）そのうち約1／3にあたる15棟が空き家となっている。いずれの地域でも建物解体や改修などにより減少傾向にある。

調査地区	2013年	2020年			
	調査数	建替	解体	残存	
		改修	消失	居住	空き家
1 浅川	7	1	1	5	0
2 四方原	4	2	0	1	1
3 大里	10	1	3	4	2
4 奥浦	6	0	2	1	3
5 鞆浦	5	0	0	1	4
6 宍喰浦	10	1	1	7	1
7 久保	9	0	0	6	3
8 その他	2	0	0	1	1
合計	53	5	7	26	15

表4　近代和風建築の調査対象となった民家の残存数

図15　近代和風建築の調査対象となった民家分布図（残存民家のみ）①浅川，②四方原，③大里，④鞆浦，⑤奥浦

図16　近代和風建築の調査対象となった民家分布図（残存民家のみ）⑥宍喰浦，⑦久保

表 5　近代和風建築の調査対象となった民家データ一覧（残存民家のみ）

No.	所在地	用途	建築時期	工法	階層	規模（間）		玉葱構え	勝手	屋根仕上	屋根形状	下屋装構	下屋仕上	下屋形式	軒裏	外壁		外部建具	出格子	ミセ	その他特徴	塀・垣	主屋方位	利用形態	備考
						間口	奥行									形式	仕上								
1	浅川	住宅	大正	伝統	二階、つし	7.5	5	有	中	桟瓦	寄棟、入母屋		桟瓦	四方	板張り	大壁	漆喰、下見板	木製ガラス戸	有	無	出桁	土塀	北	居住	
2	浅川	住宅	明治	伝統	二階	5.5	5.5	有	右	本瓦	切妻	下屋桁	本瓦	三方	そぎ、野地	大壁	漆喰、磨平目	木製ガラス戸	有	無	出桁、えぶり板		北	居住	東の妻側に玄関
3	浅川	事務所	大正	在来	二階	7.5	4	無	中	スレート	切妻				板張り	大壁	下見板	アルミ	無	無			南	居住	
4	浅川	住宅	明治	伝統	二階	5.5	5.5	有	右	本瓦	切妻	下屋桁	本瓦	三方	置立、野地	大壁	漆喰、下見板	木製ガラス戸	有	無	水切瓦、えぶり板、手摺		北	居住	東の妻側に玄関
5	浅川	事務所	昭和	伝統	二階	5	5	有	左	桟瓦	寄棟				板張り	大壁	下見板、トタン	アルミ	無	無			南	居住	④と所有者が同じ
6	西方原	住宅	明治元年	伝統	つし二階			有	左	本瓦	切妻		本瓦			大壁	下見板	木製ガラス戸	無	無		板塀	南	居住	
7	西方原	住宅	昭和初期	伝統	平屋	3		無	左	桟瓦	切妻				野地張し	大壁	下見板	木製ガラス戸	無	無			西	空家	
8	大里	住宅	明治5年	伝統	中二階	6	5	有	中	桟瓦	切妻	葺ぎ変、下屋桁	桟瓦	四方	野地張し	大壁	漆喰、下見板	木製ガラス戸	無	無	肘木、方杖、えぶり板	板塀、石垣、土塀	南	居住	
9	大里	住宅	明治～大正		二階			有	左	桟瓦	入母屋									無				居住	
10	大里	医院	昭和27年	在来	平屋			有	左	桟瓦	切妻				野地張し	大壁	下見板	木製ガラス戸	無	無	小庇	板塀	南	居住	医院隣の母屋に居住
11	大里	住宅	大正2年	在来	二階			有	中	桟瓦	寄棟					大壁	下見板		無	無				居住	
12	大里	住宅	幕末	伝統	つし二階			無	右	桟瓦	切妻		桟瓦			真壁	漆喰、下見板			無			南西	空家	元鉄砲鍛冶の住宅
13	大里	住宅		伝統	二階			有	右	桟瓦	入母屋		桟瓦			真壁	漆喰、下見板			無	壁塗	板塀、土塀	南	空家	
14	奥浦	住宅	昭和8年	伝統	二階	4	4	無	左	本瓦	切妻	差肘木	桟瓦	一方	野地張し	大壁	漆喰、下見板	木製ガラス戸	無	無	持送り、手摺		北東	居住	
15	奥浦	商店	昭和	伝統	平屋	3	3.5	有	左	桟瓦	切妻				野地張し	大壁	下見板	木製ガラス戸	無	無	持送り		北	空家	
16	奥浦	商店		在来	二階			無		桟瓦	寄棟		トタン	二方	野地張し	大壁	下見板	木製ガラス戸	無	無	手摺		北西	空家	
17	高園	住宅	昭和32年	伝統	二階			有	中	本瓦	切妻		本瓦			真壁、大壁	漆喰、下見板				鬼瓦	板塀、石垣	南西	空家	
18	柳浦	住宅	大正元年	伝統	二階			無	中	桟瓦	入母屋	差肘木、下屋桁	桟瓦	三方	野地張し	大壁	下見板	木製ガラス戸	有	無	手摺		南	居住	
19	柳浦	事務所	昭和10年	在来	二階	5	3	無	左	桟瓦	寄棟				野地張し	大壁	下見板	木製ガラス戸	無	無	小庇		東	不明	
20	柳浦	住宅	幕末	伝統	二階	4.5	4	有	中	本瓦	切妻	差肘木	桟瓦	三方	野地張し	大壁	漆喰、下見板	木製ガラス戸	無	無	小庇、肘木、持送り	石垣	北	空家	
21	柳浦	住宅		伝統	つし二階	5.5		無	左	桟瓦	切妻	差肘木	桟瓦	一方	そぎ張し	大壁	漆喰	アルミ	無	無	持送り、えぶり板		南	居住	
22	柳浦	住宅		伝統	二階	5		無	左	桟瓦	切妻	差肘木、下屋桁	桟瓦	一方	野地張し	真壁、大壁	漆喰、下見板	木製ガラス戸	有	無	持送り、えぶり板、手摺		北	空家	
23	宍喰浦	住宅	昭和戦前	伝統	二階	4.5		無	右	桟瓦	切妻	下屋桁	桟瓦	一方	野地張し	大壁	漆喰、その他	アルミ	無	無	出桁、海鼠		東	居住	
24	宍喰浦	住宅	明治	伝統	二階	5	3.5	無	右	桟瓦	切妻	天秤梁	桟瓦	一方	野地張し	大壁	漆喰、下見板	木製ガラス戸	無	有	水切瓦、方杖、持送り		東	居住	
25	宍喰浦	商店	明治	伝統	つし二階	5.5	5	無	中	桟瓦	切妻		桟瓦	二方	野地張し	大壁	漆喰、トタン	アルミ	無	無			北	居住	
26	宍喰浦	住宅		伝統	二階	4		無	左	桟瓦	切妻	差肘木、下屋桁	桟瓦	一方	そぎ張し	真壁、大壁	漆喰、トタン	アルミ	無	有	肘木、方杖		北	居住	
27	宍喰浦	住宅	大正	伝統	二階	5.5		無	右	桟瓦	切妻	差肘木、下屋桁	桟瓦	二方	野地張し	真壁、大壁	漆喰、トタン	木製ガラス戸	有	無	出桁、肘木		南	居住	
28	宍喰浦	住宅	昭和戦前	伝統	三階	6	6	無	中	桟瓦	寄棟	差肘木	桟瓦		そぎ張し	大壁	トタン他	アルミ	無	無	小庇、肘木、手摺		東	居住	
29	宍喰浦	住宅		伝統	二階	6		無	右	桟瓦	切妻	差肘木、下屋桁	桟瓦	一方	そぎ張し	真壁、大壁	漆喰、下見板	木製ガラス戸	無	有			南	居住	
30	宍喰浦	住宅	大正～昭和	伝統	二階	5	4	有	左	桟瓦	切妻		桟瓦	三方	野地張し	大壁	トタン		無	無	たかへい		東	空家	
31	久保	住宅	昭和戦前	伝統	二階	5		無	左	桟瓦	切妻	差肘木、下屋桁	桟瓦	一方	野地張し	真壁、大壁	漆喰、トタン	木製ガラス戸	無	有	出桁		南	居住	
32	久保	住宅	昭和戦前	伝統	つし二階	4.5		有	右	桟瓦	切妻	下屋桁	桟瓦	一方	野地張し	真壁	漆喰、下見板	木製ガラス戸	無	無			南	居住	
33	久保	住宅	昭和戦前	伝統	二階	4.5	3	無	右	桟瓦	切妻	差肘木、下屋桁	桟瓦	一方	野地張し	真壁、大壁	漆喰、下見板	アルミ	無	有	出桁、肘木		北	居住	
34	久保	住宅	明治～大正	伝統	二階	5.5		無	左	桟瓦	切妻		桟瓦	一方	野地張し	大壁	漆喰、下見板	木製ガラス戸	無	無	置立		東	居住	
35	久保	住宅	明治	伝統	二階	4		無	左	本瓦	切妻	差肘木、下屋桁	本瓦	二方	野地張し	大壁	下見板	木製ガラス戸	有	有	持送り		南	居住	
36	久保	住宅	明治	伝統	二階	4		無	左	桟瓦	切妻	差肘木、下屋桁	桟瓦	二方	野地張し	真壁、大壁	トタン	木製ガラス戸	有	有	出桁、肘木、格子窓		南	居住	
37	久保	住宅	昭和25年	伝統	二階	4.5	3	無	右	桟瓦	切妻	差肘木、下屋桁	桟瓦	四方	野地張し	真壁、大壁	漆喰、トタン		無	有	出桁		北	空家	
38	久保																						南	空家	
39	久保	住宅	明治～昭和	伝統	二階			有		桟瓦	切妻		桟瓦									土塀	西	空家	
40	東前	商店	大正～昭和	在来	二階	4.25	3.5	無	中	桟瓦	寄棟				板張り	大壁	下見板	木製ガラス戸	無	無	小庇		東	空家	
41	小川	住宅	昭和	伝統	つし二階	5	4	有	右	桟瓦	切妻	通肘木	桟瓦	四方		真壁、大壁	下見板、塗籠	木製ガラス戸	無	無	肘木、えぶり板	石垣	西	居住	

5．建物の意匠的特徴や路地の名称

建物の意匠的特徴や路地について，地域住民への聞き取りから，「地域固有の呼称」があることが分かった。

1）たかへい

建物間口に対して並行に立ち上がる袖壁について，代々大工を営む方からの聞き取りにより「たかへい」と呼んでいることが明らかになった。宍喰浦地区における呼称である。幅は半間程度のものが多く見られたが（**図17**），２間ほどの長さを有するものもある。（**図18**）戸境に垂直に袖壁を立て火災からの延焼を防ぐための防火壁の役目をもつ脇町の「うだつ」に形状が似ているが，防火目的ではなく，雨仕舞と意匠を考慮したものと思われる。

図17　たかへい

図18　２間ほどの長さを有するたかへい

2）「あわや」と「ほそや」

いずれも主要な通りをつなぐ，人が通り抜けられるだけの小道の呼称で，浅川地区では「あわや」，鞆浦地区では「ほそや」（**図19**）と呼んでいる。隣接する牟岐町では，浜へ通りぬけるために設けられた小道を「あわえ」と呼んでいる。

図19　ほそや

6．個別民家の解説

浅川地区と大里地区で近代和風建築の調査対象となった民家の詳細調査を行った。

1）浅川－O家住宅

当家は，浅川地区を北西から南東に流れる川より西側にある大通りに面し，北向きに建つ。（**図20**）通りに面して左から主屋，納屋が並び，裏に庭と畑があり，厩（うまや）などが建つ屋敷構えである。（**図21**）

主屋は切妻造二階建て，間口5.5間，奥行き5.5間，通りに面した出入り口は右勝手，東の妻側に玄関を設ける。勝手とは別に玄関を設け格式のある家構えとなっている。勝手を入ると土間と座敷が並び，その奥に通りニワがあり，引き戸を介して増築部に続く。（**図22**）二階の軒は出桁（でげた）を設け深くしてある。

水害を受けやすい立地のため，土間を通りより高い位置に上げ，座敷は通りから約１ｍの高さにある。（**図23**）昭和南海地震で津波に遭った際，床下まで浸水した痕跡が残る。

家人によると，少なくとも明治30年以前の建築である。屋根は本瓦葺き，外壁は主に漆喰塗りと下見板張り，西側の外壁は水切り瓦を有し，漆喰で塗り固められ，コテ絵を施したえぶり板や持ち送り，正面は一階に出格子，勝手の引き戸にケヤキの腰板，二階に手摺，袖壁など細やかな意匠が施されている。（**図24，25**）

図20　【浅川－O家住宅】外観

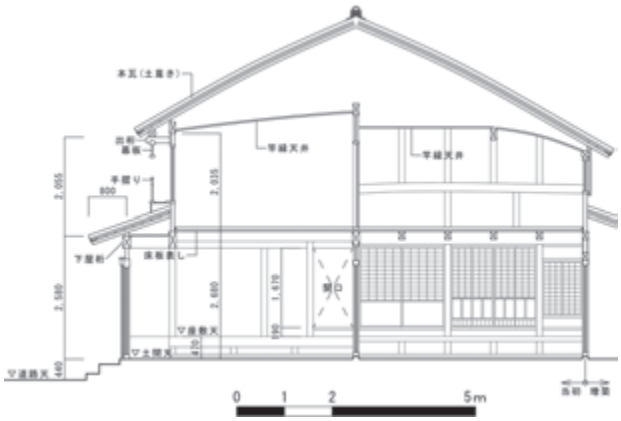


図23　【浅川－O家住宅】主屋断面図

図21　【浅川－O家住宅】配置模式図

図24　水切り瓦を有する西側外壁

図25　漆喰で塗り固めコテ絵を施したえぶり板

図22　【浅川－O家住宅】主屋間取り

2）浅川－H家住宅

当家は，浅川地区を北西から南東に流れる川より東側の通りに面し，北向きに建つ。（**図26**）主屋は切妻造二階建て，間口5.5間，奥行き5.5間，通りに面した出入り口は右勝手，東の妻側に玄関を設ける。家人によると，少なくとも明治30年以前の建築である。また，勝手とは別に東側に玄関を設け格式のある家構えとなっている。二階の軒は出桁を設け

深くしている。水害を考慮し土間を通りより高い位置に上げるなど，先述したO家住宅と構造規模や外観的特徴が類似している。

図26　【浅川－H家住宅】外観

O家とH家は建築時期も近く，類似点も多いことから，明治期の浅川地区における大規模な町家の様式を伝えるものと考えることができる。いずれも派手さは見られないが細部まで丁寧に加工し，贅を尽くした材料を使用しているなど建築的価値も高く，まちの景観を形成する貴重な民家である。

3）浅川－浅川西公民館

当館は，浅川地区を北西から南東に流れる西側の大通りに面し，南向きに建つ。（**図27**）寄棟造二階建て，間口５間，奥行き５間，の擬洋風（ぎようふう）建築である。中央に設けられた玄関から奥に広間，右の勝手口を入ると炊事場がある。（**図28**）小屋組みはキングポストトラスの洋小屋である。（**図29～31**）

図27　【浅川－浅川西公民館】外観

図28　【浅川－浅川西公民館】平面図

図29　【浅川－浅川西公民館】立面図

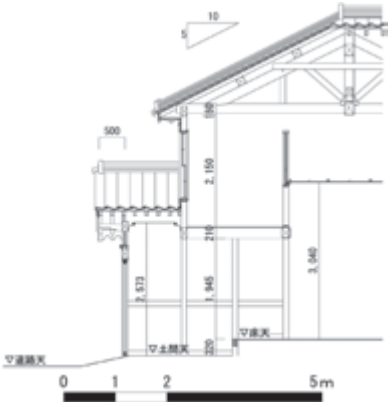


図30　【浅川－浅川西公民館】断面図

図31　【浅川－浅川西公民館】小屋組

4）大里－H家住宅

当家は，かつて御鉄砲（おてっぽう）の住居が点在していた屋敷町に隣接しており，一見すると御鉄砲の屋敷構えに思われるが，家人によるとその系譜ではなく代々，林業を営んでいた。西側の通りから東西に延びる土塀に沿って進むと，土塀に面して南向きに主屋が建つ。主屋の北東に納屋，北西に庭，裏に畑がある屋敷構えである。（**図32**）

主屋は切妻造中二階建て，間口６間，奥行き５間，西の正面中央に玄関を設ける。（**図33**）敷地周囲は槙垣と石垣，土塀で囲われている。（**図34**）棟札により明治５年の建築である。屋根は桟瓦葺き，外壁は主に下見板張りと一部漆喰塗り，内部意匠も細部まで丁寧に加工し，贅を尽くした材料を使用しているなど建築的価値も高く，まちの景観を形成する歴史的な建造物である。

図32　【大里－H家住宅】外観

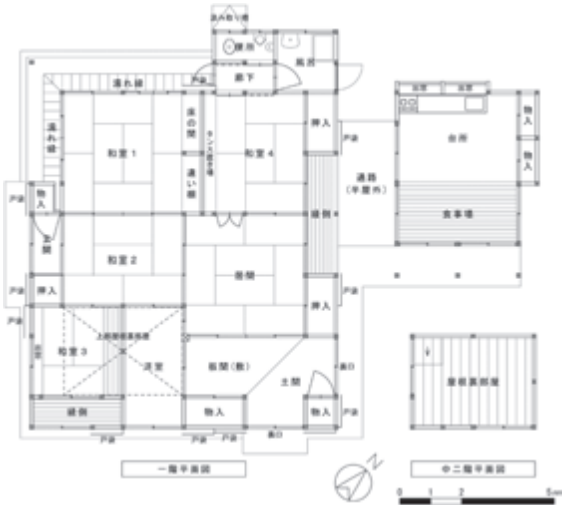


図33　【大里－H家住宅】平面図

図34　【大里－H家住宅】左奥：槙垣，中央：石垣，右：土塀

7．おわりに

海陽町でも少子高齢化や過疎化の影響を受けてか，伝統的な民家は減少傾向にある。県南地域の漁村集落における重要な建築的特徴である「ミセ造り（蔀帳）」を有する民家は半数以上の消失が確認された。茅葺き民家は確認された数が少ないものの，県南部山村集落の暮らしを伝える貴重な歴史的な建築物といえる。近代和風建築も減少傾向にあるが，浅川地区に残るO家とH家の住宅は類似した特徴を持ち，明治期の大規模な町家の様式を記録できた。

地域の歴史的景観を形成していた伝統的な建築物が消失することは，地域固有の景観を失うだけでなく，建築文化の消失にもつながるため，図面等による記録保存をすすめると同時に，地域の建築文化の継承のため，保存活用などの対策が求められる。

最後になりましたが，本調査に快くご協力を頂いた住民の皆様はじめ関係各位に深く感謝いたします。

参考文献

阿波学会・徳島県立図書館（1975）：『郷土研究発表会紀要第20号総合学術調査報告　宍喰町』

阿波学会・徳島県立図書館（1987）：『郷土研究発表会紀要第33号総合学術調査報告　海部町』

海南町史編纂委員会（1992）：『海南町総合学術調査報告　第二編』

（社）徳島県建築士会阿波のまちなみ研究会（1994）：『漁村集落の〈景〉徳島県南漁村「ミセ造り」の街並み調査報告書』

徳島県教育委員会（2013）：『徳島県の近代和風建築―徳島県近代和風建築総合調査報告書―』

Traditional houses in Kaiyo Town

MATSUO Akiko*, INOUE Yukimi,UEDA Satomi, KITA Junzo, KUBO Ayano, TAKATA Tetsuo, HAYASHI Shigeki, HARADA Naoko and FUKUTA Yorito

＊ 2-3-3-301, Minaminikenyacho, Tokushima 770-8063, JAPAN

Proceedings of Awagakkai, No.63（2021），pp.15－26.